

丸栄タオル株式会社

革新型エアジェット織機の導入と高伸縮性を持つ アパレル縫製品の開発

- 高伸縮性素材を使用したアパレル縫製品の高付加価値化
- アセアン市場に「タオルを纏うライフスタイル」を提案していくことで、更なる「今治タオル」のブランド価値向上に貢献

事業取組みの経緯

当社は、日本一のタオル産地である愛媛県今治市で1958年に創業したタオルメーカーで、ハンカチからタオルケット、また、バスローブやタオルシャツなどの縫製品を製造販売してきた。

2003年にプライベートブランドとして「アイデアゾラ(2014年呼称を「イデゾラ」に変更)」、同時に東京オフィスを開設、2007年には東京銀座にタオルブティック「イデアゾラGINZA」を併設するなど、自社ブランドはもちろん、今治タオルの知名度向上にも注力してきた。

この状況下、海外での普及及び知名度向上を図るため、展示会や見本市に積極的に参加、国際展示会の商談を通じて厚手のバスローブ類は好まれず、文化・気候の相違により薄くて吸水性・伸縮性に優れた商品に高いニーズがあり、当社独自の片面パイル生地が海外顧客のニーズに合致することが判明した。

実施内容

そこで、織り幅の変更に素早く対応でき、また、多品種小ロットでファッション性のある高品質なアパレル生地を可能とする新型エアジェット織機(エアジェット織機と電子ジャガードの組み合わせ)を導入した。



事業取組みの成果

従前より当社が保有していたエアジェット織機はドビー仕様だった。大口一括受注品の生産で利用していたため、デザイン性の高い高性能商材の生産ができなかった。しかし、エアジェット織機とジャガード機の組み合わせで、小口受注対応ができ、試作品開発のスピードも向上された。

加えて導入した機械メーカーとの技術的な連携により高伸縮性素材を使用し、薄くて伸縮性の高い生地の生産が可能となり、織り幅の変更がスピード化され、多品種小ロット生産における作業工数が削減、生産性が向上し納期短縮につながった。

- ・作業工数軽減: 従来の6分の1に低減した。
- ・能率アップ: エアジェット織機導入により機械の能力では約2倍に生産能力がアップした。(耐久性に配慮して稼働させているため、通常は1.5倍程度の能力に抑えている。)
- ・品質: デザイン性の高い複雑な柄やダイナミックな模様を実現した。

今後の活動予定

約6億人の人口を擁するアセアン諸国は、高成長により購買意欲が中間層・富裕層へ拡大しつつある成長著しい消費市場であり、積極的に国際展示会に出展・参加して販路拡大に努める。また、ファッション性、実用性及び機能性を兼ね備えた付加価値の高い高級アパレル縫製品は、アパレルメーカーなどを対象に営業活動を実施し、さらに当社のノウハウ及び人脈を活用し、経験やネットワークを海外で活かしていく。

本社新社屋



本社・ショールーム



丸栄タオル株式会社

■代表者／代表取締役 村上 誠司

■本社住所／〒794-0811 愛媛県今治市南高下町1-2-30

■TEL／0898-22-4176

■FAX／0898-23-4391

■URL／<https://www.maruei-towel.com/>

■設立年月日／1989（平成元）年6月30日

■資本金額／3,000万円

■従業員数／75名

■事業拠点／本社工場 愛媛県今治市南高下町1-2-30

東京オフィス 東京都中央区銀座4-13-8ソフィア・スクエア銀座205号

企業概要

タオル製品製造販売、プライベートブランド事業、ショップ展開

主要取引先

昭和西川株式会社、その他

主要商品



スーピマコットン無撚糸タオル

高級綿の代名詞であるスーピマコットンを贅沢にも無撚糸に仕上げ究極の柔らかさを追求した、極上の肌ざわりのよいタオル



超長綿の細番手を使用し、表はフラット裏には細かいパイルを出して織りあげたタオル生地で作ったパジャマ。肌と生地との間に程よい空気層が暖かさを保ってくれる。



細番手の両面パイルに伸縮糸を入れて織り、少しストレッチをきかせた生地でかぶりができるようなアイテムをつくった。

ナチュラルカラーのTシャツは何にでも合わせやすく、夏は涼しく冬は暖かく着られる。

主要設備

高速レピア、エアジェット織機、ジャガード柄出機他、太陽光発電パネル(2012年今治本社工場の屋上全面に設置)

担当者	常務取締役兼営業部長 藤原 佳太
連絡先	0898-22-4176
連絡先E-mail	fujiiwara@maruei-towel.com